

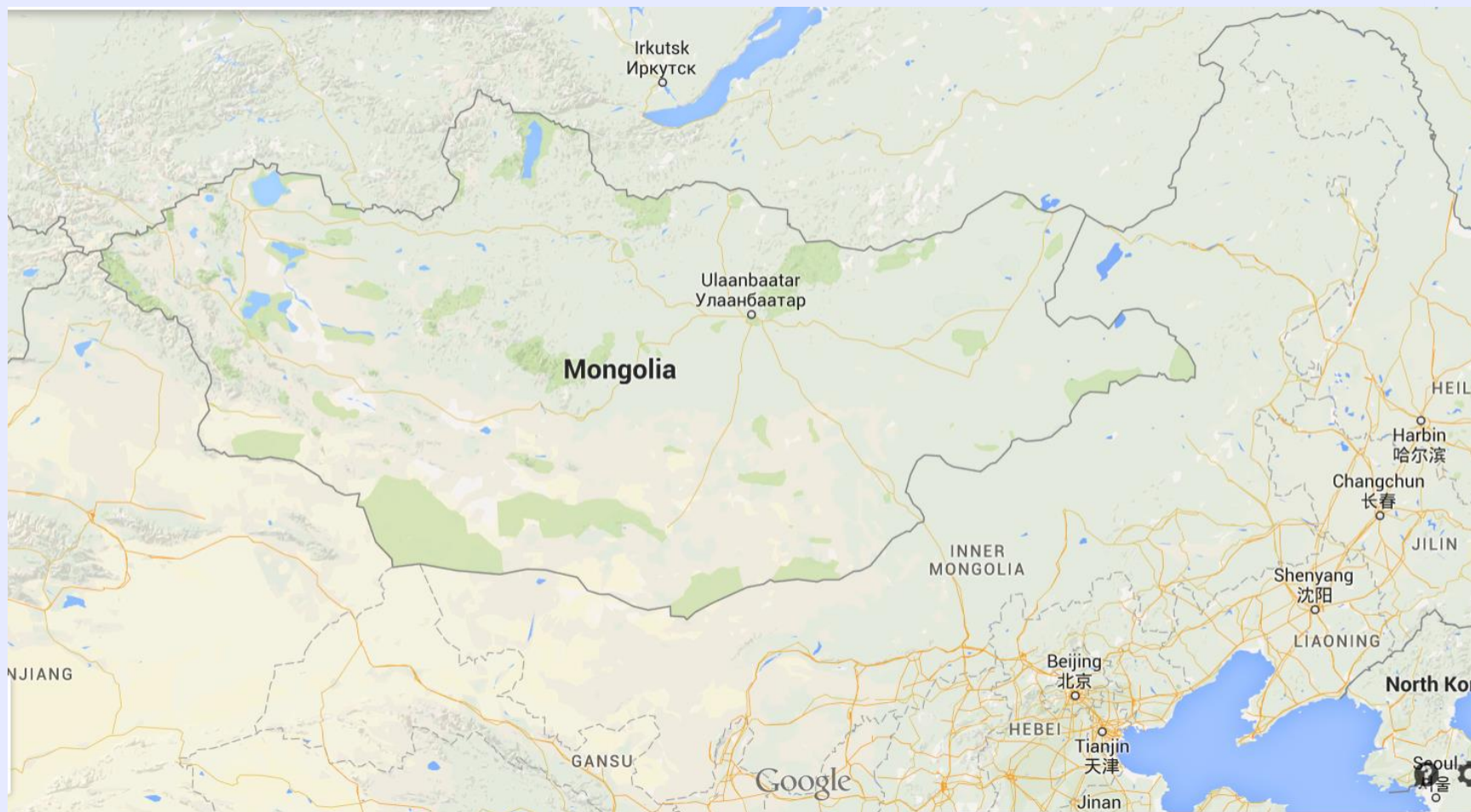
モンゴル国の歯科事情

モンゴル国立医療科学大学

益田高行

ADFシンポジウム 2015.2.14

地理



モンゴル帝国の最大版図

The Mongol Dominions, 1300—1405.

92



モンゴル帝国の特徴

- ◆ 世界各地の地域的な文化圏を統合
「世界史の誕生」
- ◆ Pax Mongolica
- ◆ 交通網、通貨システムの整備
- ◆ 支配者のモンゴル人は常に少数であって、多民族がそれぞれの特長を生かして活躍した

その後の経緯

- ◆ 帝国の分裂
- ◆ 元朝の衰退→草原へ還り北元となり明朝と拮抗する
- ◆ 満洲人による清朝の成立とモンゴルの関与
- ◆ 清朝の弱体化とロシアの支援によるモンゴルの独立(1911)と後年の社会主義国化(1924)
- ◆ 辛亥革命後の中華民国とモンゴル
- ◆ 分断国家としてのモンゴル

歴史のまとめ

- ◆ 世界帝国となった経験を持つ誇り高い国民性
- ◆ その後の旧ソビエト連邦と中華人民共和国という大国の思惑により分断国家となったこともあり、根底には排外的な気分も存在する。とくに中国と混同することは避けるべきである。
- ◆ 民主化革命のあともソビエト式の官僚システム教育システムの影響が色濃く残っている

現在のモンゴル国



モンゴル国の基礎データ

- ◆ 面積:156万4,100平方キロメートル(日本の約4倍)
- ◆ 人口:293万300人(2013年,モンゴル国家統計委員会(以下「NSO」))
- ◆ 首都:ウランバートル(人口137万2,100人)(2013年, NSO)
- ◆ 民族:モンゴル人(全体の95%)及びカザフ人等
- ◆ 言語:モンゴル語(国家公用語), カザフ語
- ◆ 宗教:チベット仏教等(社会主義時代は衰退していたが民主化(1990年)以降に復活。1992年2月の新憲法は信教の自由を保障。)

(外務省ホームページによる)

モンゴル国の政治体制・内政

- ◆ **政体**: 共和制 (大統領制と議院内閣制の併用)
- ◆ **元首**: ツアヒヤー・エルベクドルジ大統領 (2013年7月再任)
- ◆ **議会**: 国家大会議 (一院制, 定員76, 任期4年, 直近の総選挙: 2012年6月)
(民主党35, 人民党26, 公正連合10, 国民勇気・緑の党2, 無所属3)
- ◆ **政府**:
 - (1) 首相チメド・サイハンビレグ (2014年11月21日就任)
 - (2) 外務大臣ルンデグ・プレブスレン (2014年12月9日就任)
民主党, 人民党, 公正連合 (人民革命党・民族民主党), 国民勇気・緑の党の大連立
(外務省ホームページによる)

主要な経済データ

- ◆ 主要産業: 鉱業, 牧畜業, 流通業, 軽工業
 - ◆ 名目GDP: 11,516.4百万米ドル (2013年, 世界銀行)
 - ◆ 一人当たりGDP: 3,770米ドル (2013年, 世界銀行)
 - ◆ 経済成長率: 11.7% (2013年, NSO)
 - ◆ インフレ率: 12.5% (2013年, NSO)
 - ◆ 失業率: 約7.9% (2013年, NSO)
 - ◆ 貿易総額: 10,626.9百万米ドル (収支: 約-2,088.7百万米ドル) (2013年, NSO)
 - (1) 輸出 約4,269.1百万米ドル
 - (2) 輸入 約6,357.8百万米ドル
 - ◆ 主要貿易品目
 - (1) 輸出: 鉱物資源 (石炭, 銅精鉱, 鉄鉱石, 蛍石), 原油, 牧畜産品 (カシミア, 皮革)
 - (2) 輸入: 石油燃料, 自動車, 機械設備類, 日用雑貨, 医薬品
 - ◆ 主要貿易相手国 (上位5か国)
 - (1) 輸出: 中国, イギリス, カナダ, ロシア, ドイツ
 - (2) 輸入: 中国, ロシア, アメリカ, 韓国, 日本 (2013年, NSO)
- (外務省ホームページによる)

現在のモンゴルについてのまとめ

- ◆ 民主的な政体
- ◆ 未開発の地下資源が豊富である
- ◆ 識字率が高く、また高等教育にも熱心である
- ◆ 経済成長率とともに、出生率も高い
- ◆ 経済的には中国への依存傾向が強い
- ◆ 地下資源以外の輸出産業の育成が課題

歯科教育の歴史と現状



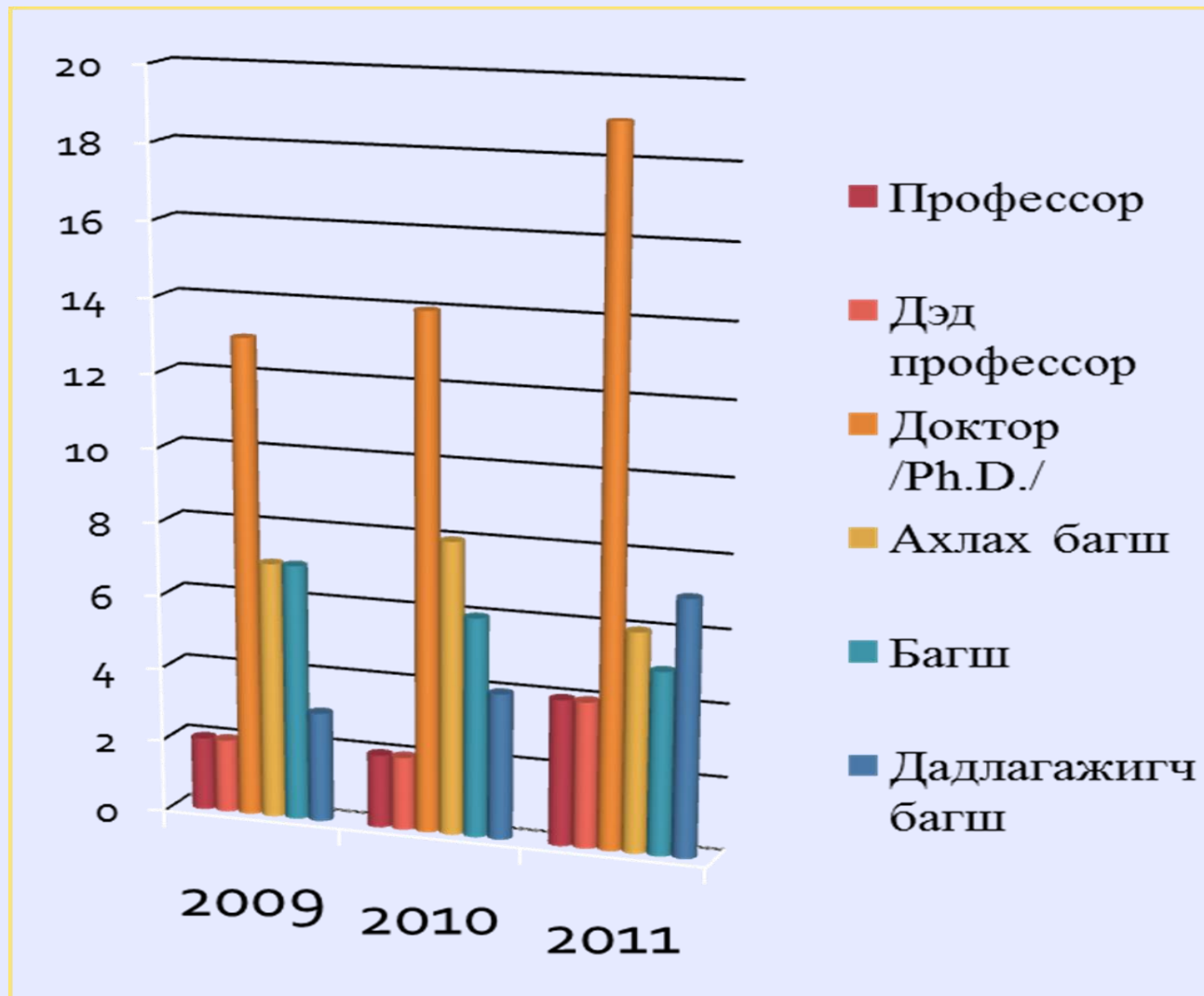
歯科教育の歴史(1)

- ◆ 1955 旧ソ連で5名の歯科専門職が卒業
- ◆ 1961 モンゴルで三年生の歯学教育を開始
- ◆ 1978まで、歯科学講座は年度によって耳鼻科、小児科あるいは外科に属していた
- ◆ 1972五年生の教育となる。

歯科教育の歴史(2)

- ◆ 1995 歯科学講座 (Department of Dentistry) は “Center of Dental Research” へと名称を変更
- ◆ 2000 歯学部がモンゴル国立健康科学大学に設立
- ◆ 2006 9月1日から歯科技工士学校が看護大学からモンゴル当歯学部へと移管される
- ◆ 2010 歯科衛生士養成部門が歯学部開設
- ◆ 2011 独立したキャンパスに移転、附属病院開設

教員数



卒業生

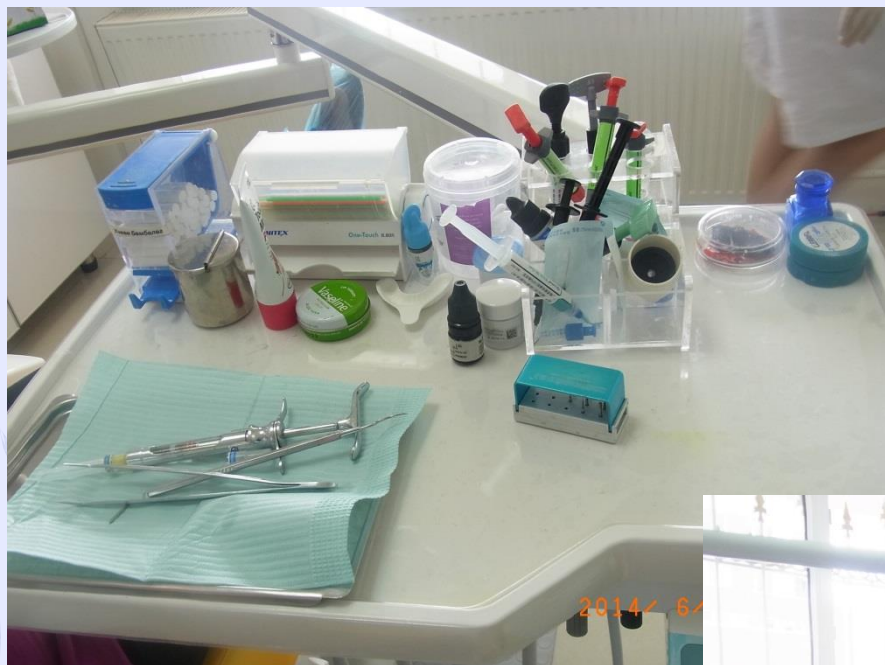
- ◆ 1965-2008の間に1500名を越える歯科医師を養成した。
- ◆ 2012年の時点で108名の大学院生、研修医等、卒後教育に関わる学生が在籍
- ◆ 2012年現在、約600名の一般歯科医がいて、270万人の総人口に対し人口比を取ると10万人あたり22名となる。

歯学教育の問題点

- ◆ 2011年までは歯学部附属病院がなかった。
 - ◆ 学生数に比べキャンパスが手狭である。現在附属病院はあるが、学部学生への実際に患者を治療するような臨床実習は困難で、研修医になる必要がある
 - ◆ 現在、日本その他の先進国を手本に6年制教育へ移行しつつある。
 - ◆ 私立の歯科医師養成機関との格差が著しい
 - ◆ 実は歯科医以外の職業についている者が多い。
- ＜供給過剰問題＞

開業歯科医院の実例











医療全般における問題点

- ◆ 薬剤不足、入手困難
- ◆ どこを受診したらよいのか？
- ◆ 診断と治療のギャップ
- ◆ バリアフリー
- ◆ サービス、環境
- ◆ 高額医療



歯科医療についての問題点

- ◆ 歯科材料、器材
- ◆ 技術
 - とくにエンド、クラウン
- ◆ 感染症
- ◆ 健康保険？
- ◆ インフォームドコンセント



海外からのモンゴルへの医療展開

- ◆ ODA
- ◆ 大学間、あるいは大学と医療機関の協力
- ◆ NGO キリスト教のミッションなど。
- ◆ 薬剤、診断・治療用機器の販売？
- ◆ 技術協力
- ◆ 医療ツーリズム
 - ◆ 韓国、タイ、シンガポールなど

医療分野参入に際して

◆ 特徴

- ◆ 人口の少ない大変小さなマーケットである。
 - 参入コストに見合うか？
 - 口コミによる評判の伝播が速い(田舎的都会)
- ◆ 国民の教育程度はかなり高い
 - 医療の質に敏感な患者
- ◆ 医師、歯科医師の数はかなり多い<はず>
- ◆ 冬季の厳しい気候と劣悪な大気汚染(ウランバートル)
- ◆ 法的諸問題
- ◆ インフラストラクチャーの問題
 - ◆ 電気の安定供給
 - ◆ 水道の水質
 - ◆ 交通手段

関連諸官庁

- ◆ 保健省

- ◆ 保健政策全般

- ◆ 文部省

- ◆ 医学教育

- ◆ 健康推進局

- ◆ 国家試験、医師免許歯科医師免許の発行。薬事認可業務

- ◆ 入国管理局

- ◆ 労働ビザの発給 外国人へのビザ発行、長期滞在に厳しい

- ◆ ウランバートル市保健局

- ◆ 病院、診療所の設置認可、監督。衛生行政

縦割り行政、かつセクト主義で相互の関係はあまり良好でない。

現代モンゴル事情

- ◆ ウランバートルへの人口流入による、大気汚染問題、交通渋滞
- ◆ 資源価格低迷
- ◆ 貧富の差の拡大
- ◆ いやな仕事はしない若者



国民性を表すエピソード

- ◆ モンゴル人は几帳面？

お札は向きを揃えて受け渡しをする

- ◆ モンゴル人はせせこましい？

無理な車線変更、割り込みによる事故多発

- ◆ Oyunbatさんは男性ですか、女性ですか？

原則論が強調されるが、、



対外感情

- ◆ 日本:良好、隣国でないことも幸いか
- ◆ アメリカ:良好、大国への警戒というものはある
- ◆ 中国:歴史的経緯もあり良好ではないが経済的依存関係もあり複雑
- ◆ 韓国:積極的な経済進出には賛否両論あり
- ◆ ロシア:かつての援助への感謝と粛清の記憶
- ◆ ヨーロッパ:ドイツへの近親感

日本の貢献の可能性

- ◆ 日本の製品、品質管理への信頼は高い
- ◆ 日本人に対する悪感情もない
- ◆ 日本の高等教育機関の卒業生が各界で活躍
- ◆ 従来の貢献の問題点
 - ◆ しばらくすると「モンゴル化」してしまう
 - ◆ モンゴル側個人の「利権」になりがち
 - ◆ 単発的あるいは散発的
- ◆ 新興富裕層等を対象にした日本への医療ツーリズムの展開

まとめ

- ◆すでに歯科医師が過剰で、患者の要求水準は高いものの、富の偏在で一般市民の収入はかなり低い
- ◆過剰な投資、資源価格の低迷で短期的に経済状態のかなりの悪化が見込まれる
- ◆歯科材料、器械、薬品類の供給問題
- ◆問題が起きた際の排外的傾向への対応
- ◆信頼できるモンゴル人パートナーが必須
- ◆新興富裕層を対象とした日本への医療ツーリズムが最も現実的